



# 第 6 号

発行所

鎌倉市材木座 6-17-19  
光明寺中神奈川教務所内  
浄土宗神奈川教区青年会

発行人

清水光致

編集者

浄青神奈川編集委員

## 神浄青主催5月15日 於光明寺 善導大師1300年遠忌音楽法要にむけて

法然上人が「偏依善導」と仰せられ師と仰がれた善導大師千三百年遠忌正当の年を迎え既に総本山知恩院に於ては正当の三月十四日を中心に遠忌法要を盛大裡に奉修した。大本山光明寺に於ては五月に奉修されるが神浄青としてもこの勝縁にめぐり逢う事は大きな喜びである。総力を結集して本山教区に協力すると共に恩徳報謝の誠を捧げる意味に於て独自の活動を展開すべく協議の結果善導大師を顕彰し、その教えを明らかにし、多くの人々と共に喜びを分かちあえ今後の活動の指針ともなるべく音楽法要を企画した。既に総本山を始めとして各本山教区では、種々の音楽法要が勤められており総本山には立派な曲符、レコードが出されている事は周知の事実である。神浄青としては現代の人々がわかりやすい御経を希求している事をテーゼとして、そのニーズに答えるべく港南浄青に全面的にお願いした。港南浄青諸氏は誰にでも理解できるように現代かなづかいで和訳し難解な仏教語は使わず和訳する方針で作業にとりかかった。善導大師には了知の如く阿弥陀仏を礼拝し懺悔し往生を願う「往生礼讃偈」という著書がある。

五言七言の詩句からできていく讃歌集で大木惇夫先生により和訳され曲譜もとの音楽法要ではよく使われる。しかしながら我々自身の自策自励の為に浄土宗全書を原書として独自の和訳を試みた。五言七言の韻を踏みなるべく現代かなづかいを使う作業は時には難行した。しかしお互いの意見交換と柴田哲彦師の適切なアドバイスで

いたなき、なんとか詩ができた。浅学非才の青年宗侶がけた愚作であるが精一杯努力した事に価値がある。作曲は築地本願寺などで活躍され仏教音楽に造詣の深い増田晃久先生に御依頼し、神浄青宗侶が主体となり歌い在家三十名のコーラスを予定している。まさに僧俗和合の画期的な音楽法要である。この法要をつうじて一人



練習風景

でも多くの同行者をつくってゆく事が目的であるのはいうまでもない。時代は流れ混迷する現代社会に於て人心の荒廃苦悩は極みにたっしている。青少年の、不良化、自殺の増大社会的センセーションを巻き起こしている。

企業に関連した事件に巻き込まれての自殺も続発している。厳しく規律化された管理社会にその一因をみいだす事もできるが、やはり子供にも大人にも生きる事の尊厳正しさを普く伝えなければいけない。多くの人々は信仰を求めている。今こそあれほどのきびしい修行生活をしてきた善導大師が自らを「罪悪生死の凡夫」であるといった真意を自覚して念仏信仰の恢弘に努めなければならぬ。今回の音楽法要が純粋性をもった青年宗侶にとって時代の流れ環境を考えた、今後の布教活動の一助になる事を期待したい。(なお音楽法要の為に御指導をいただいた諸師に深甚なる敬意謝意を表したい。)

副会長 里見嘉嗣

### 音楽法要次第

- 一、献華偈(パリー語聖典)
- 二、献灯偈(パリー語聖典)
- 三、献香偈(パリー語聖典)
- 四、奉請(法事讃)
- 五、日中礼讃(往生礼讃偈)
- 六、日中無常偈(往生礼讃偈)
- 七、誦経(無量寿経、念仏往生願)
- 八、御回願
- 九、撰益文(観無量寿経)
- 十、念仏一会
- 十一、四弘誓願(往生要集)

### 御遠忌音楽法要執行に当りまして

増田 晃久

我が国の生活は、殆んど全部仏教に依らないものは無いと申しまでも過言ではありませぬ。

文学、美術、音楽、演劇、武道等そのすべての頂点が仏の教えにあり、仏教はすべての中心であります。

さて、音楽の分野に於きまして、これを考えますと、仏教につれて伝来いたしました器楽曲は雅楽でございまして、聖徳太子により宮中の式典音楽に制定されました。

その他、読経、声明、礼讃、和讃等の声楽とそれに関連しました楽器はおびただしい数にのぼります。

我が国の音楽は江戸時代の三百年の間外国からの伝来が止っておりませんが、その間に西欧では、バッハからドビッシュー位の進展がありまして、それ等の音楽が明治と共に一度に参りました。

そしてエリートに目されるインテリゲンツィアは無宗教を標榜し、以って、信仰心のかわりに芸術性を置くか、又は科学的な唯物主義をおくに至り、その他の立場の者は、可及的多数の人に娯しみをあたえる芸能をもってよしとし、それによって得る知名度を芸術性の上下に置きかえて、その商業性から得られる金銭的利益の多いものは、これを良とし、利益の少ないものは芸術的ランキングも低いとされると言う。全くの本末を転倒した状態に立至っている次第で

す。我々は、独自の仏教上の音楽をもち、その後伝来した幾多の音楽上の技術並びに楽器を入手いたしました。そこでこれらの新しいメディアを用いた仏教的宗教活動を希求するものです。殊にその中で合唱は比較的少ない訓練によって、高い精神的効果を得られる手段なのです。例えば声明、礼讃程度に旋律の微妙さのきびしい訓練を得ない人々でも、協力の努力と適当な指導者を得れば相当の感銘を得られます。

例えばバイオリンなどの演奏技術の習得には、長期の訓練を要しますが、合唱では熱心な意欲さえあるならば可能ですから合唱を以って新しい宗教活動の突破口とするのです。尚、これは宗教上の問題が主であり、又第一義でありまして、芸術的な美はそれに附随する属性なのです。

今、我々仏教徒は、抽象的な美意識による芸術性の追及から解放されて、宗教活動の上に、はっきり根を降ろすべきであります。善導大師御遠忌にあたりまして、この作曲、並びに法要執行に参加できますことの感謝と感激は申すに及ばず、この音楽法要を通じて仏恩報謝の一部分になりますればその不思議さに恐惟身のおくところも知らない程の光栄でございます。

合掌



### 作曲家経歴

仏教音楽研究会会長、四十八楽団長  
第十八吹奏楽団長、他  
日本作曲家協議会会員、日本音楽著作権協  
会員、日本吹奏楽指導者協会会員  
その他多数作品を発表

### 第四回家族親睦会 家族ぐるみの和合の輪

第四回を迎えた家族親睦会は九月二十九日例年通り宗仲寺と座間キャンプを会場に行われました。台風の影響の雨の中多数の会員が出席され有難うございました。四回目ともなれば大半の会員がなれてきており



宗仲寺の別時念仏、キャンプでのマナーも地につけてきました。本年度からは、家族

ぐるみの和合だけでなく、広くOB・全会員・特に学生・独身会員にも積極的に参加を呼びかけ、OB並びに全会員の親睦・和合を計る目的としたのですが残念ながら今一步のところでした。次回よりはもっと多くの会員の参加を望みと気あいの交歓の輪を広げていきたいものです。いつもながら、会場の提供・キャンプの交渉をしていただく平野前会長、子供達に歌やゲームの指導をしていただく座間幼稚園の先生方の御協力に対し厚く御礼を申し上げます。今回の参加人数は大人三十五名・子供二十九名・学生一名・当番組は高座組でした。

### 光明寺十夜 念仏行進と街頭伝導

毎年十月十二日―十五日迄、大本山光明寺十夜法要が厳修されている十四日の唱導師の勤まる日、私達神青は、午前中本山より鎌倉市内を念仏を称えながら駅前まで念仏行進をし、駅前にて辻説法を行なっております。鎌倉という歴史的土壌柄他宗派の多い中で浄土宗のお念仏歓喜と感謝と浄化の生活の中で一切を生かされているお念仏のありがたさを短い時間であるが街頭で説法することによって一人でも多くの人に念仏の業をわかつていただきたく精進している次第であります。

合掌



# 組だより

## ★★★港南組★★★

昭和五十四年度の活動としては、善導大師千三百年遠忌を自題として「法事讃」を中心とした法式講習会を開講し、組法要奉修の為浄青会員と諸大徳合同の稽古にも励んだ。親睦活動としては五月五日に港北浄青との第二回ソフトボール大会、懇親会を寺族を交えて行い、ヤングパワーに勝る当組が二連勝した。終了後新横浜ホテルに於て中華料理に舌鼓を打ちながらのパーティは大変和やかなものであった。愛の活動としては、十二月十七日会処蔵田寺より戸塚駅頭まで街頭行脚し、駅頭に於て歳末助け合い募金を実施した。港北高座浄青大谷長尾両師の応援をえて約十萬円の浄財を神奈川新聞社に依託した。尚募金活動に際し、京浜大光院修養願としていた機関紙「港南浄青」を六月に発刊した。会員相互の理解を深めると共に教化紙として今後も発刊していく予定である。会員の動静として、塩沢智彦君（知恩院）刃部恭明君、大川英喜君（増上寺）が加行成満された。今後の活躍を期待したい。



## ★★★京浜組★★★

我々京浜組の月例会では日常勤行式、華籠作方及び洒水の方法につき実習をつけ、てまいりました。又我々にとって死活問題になりつつある税金対策についても熱心に話し合いをいたしました。創価学会の次は税務署なのでしょか？ もちろん法式などは専門の先生をお招きしご講義をお聴きしたいのですがなかなか思うようにはなりません。そこで各会員がおのおの資料を持ちより積極的に意見を交換するようにしております。

現在我々のメンバーは六人だけですが、県浄青などの行事にはなんとか都合をつけて参加するようにしております。浄青の活動など少人数ではありますがほとんど出席させていただきました。今後も各会員相互の親睦を深め微力ながら宗門の発展に寄与出来れば幸いと思えます。

## ★★★三浦組★★★

ここ一年の当組としての活動は、毎月の法式講習会と歳末助け合いのための托鉢などが主なるものである。毎月の法式講習会では日常勤行を中心とした基本的なことに重点をおいて行っている。また昨年十二月の托鉢には八名の会員が三崎の商店街を中心に、浄財を集め歳末助け合い運動に協力した。

さらに昨年九月には役員改選を行い、会

員の決意も新に会を盛り立てようと話しあったのであるが、いざ毎月の法式講習会などになると参加者も少なく、低調な会となつてしまっている。会員としての自覚の不足、会のマンネリ化などといったことから会の活動もおもむにまかせないのが残念ながら現状である。もう一度初心に立ち戻り会員相互の協力を呼びかけ、すべての会員が活動に参加できるように会として再出発したいと思っている。

## ★★★小田原組★★★

小田原浄青も早や十年を迎え様としてい。ます。会員も多少の移動もありましたが、何んとか今日までこれたのも会員相互の協力のたまものと思えます。

昨年度より善導大師千三百年遠忌に向けて一年間法事讃法式を研修し今年も引き続き行おう事で一致して居ます。

その他の行事として会員有志による北海道旅行、又会員の家族親睦会（昨年を引き続き箱根レイクホテルにて）等を行い、又慶事は村瀬、松陰両君の結婚、と充実した一年でもありました。その他カンボジア難民救済募金を小田原駅頭に有志四名と総代会賛同者二名により行い総額十万余円の勸募があり寄金をする事が出来ました。おかげさまと感謝の気持です。この四月には第二回目の募金を予定しています。前回以上の成果を祈念しています。

## ★★★中組★★★

昨年度は組教化団との共催により春秋の二回、大正大学より福西賢兆・藤井正雄両先生を講師に招き、「仏教と民族風習」と題して講演会を開催した。各寺院の住職方も参加され、大変好評の内に終った。

今年度は、同問題を更に巾広く、深く掘りおこすため、各地より多くの資料を集め、講師と共に、現在・未来の寺院のあり方、僧侶の民衆教化のあり方・役割等を考えたと思つている。

一方、今年度は善導忌関係等で行事・会なども多く、中浄青は会員全員が積極的に参加・また自己の力をつけるため、各寺院の施餓鬼・十夜等にも積極的に参加し、実践面に力を注ぎ、巾広い活動と親睦を続けたいと思つている。

旧年度は常任理事の宮本巨秀君が身体をこわし欠席がちであった。少しも早く回復することを祈る。また、一真光君が加行をおえ、僧侶の仲間入、両氏の今後の活躍を期待したい。

## ★★★鎌倉組★★★

当会は、発足以来三年目に入りました。会員は十一名おりまだ活動というよりか、県青年会の連絡事項の伝達型式を取っている次第です。だから鎌倉組のみ支部という名称にふさわしい活動です。ただ一つ毎月行なわれる港南組との合同の法式講



習会が、組の活動と違ってよからう。会員は殆んど全員、別に職業あるいは、地域活動に属し、多忙な人が多い。これも仕方がないが、しかし、やらないよりは少しでも青年会に参加すれば、何かそこに見い出される物がある。そこに期待をし、少しでも前進すればと思う。去年から組費の方より貴重な財源をさいていたゞき青年会に活動資金として頂戴しているのもその例ではなからうかと思う、これからの僧侶としての自覚をもち、これを有意義に使用してゆきたいと思います。

★★★港北組★★★

。総会 五四・四・八  
五十三年度総会を川崎市中原区井田の説教寺に於いて開催した。

。花まつり 五四・四・八  
総会に先立ち説教寺に於いて井田仏教婦人会と共催で花まつりを行なった。

。第二回ソフトボール大会並に家族親睦会  
五四・五・五  
昨年に引き続き港北、港南組対抵ソフトボール大会が開催された。

。子弟練成会 五四・八・二三  
会場 菊名蓮勝寺に於いて毎年行なわれている蓮勝寺子供修養会に合流して子弟の練成会を行なった。

。(実践布教)の講習会開催 五四・十  
会場 第二部浄流寺

会員相互の実践布教を行うため浄慶寺麻生諦説師、念仏寺西井昭二師、専念寺大谷

正憲師がそれぞれ発表し、実益のある講習を実施し、終了後は分団長森爽海先生の実演があり有意義に終了した。

。法式講習会・忘年会  
会場 第二部宝秀寺

東京教区西光寺山本康彦師を招請講師とし、第三回法式講習を開催「法事讃」について受講引き続き山本講師を囲み忘年会を開催した。

◎新入会員の紹介

- 二部長内寺 横川悦子
- 二部泉谷寺 久米真浩
- 三部竜雲寺 平本正法

★★★高座組★★★

組内寺院・組総代会との共催にて去る十月十九日(月)組長自坊西光寺にて、本山・

教区・各組役職方御参列のもと高座組善導大師宅千三百年遠忌法要厳修。主に法要部門担当、十数回にわたりご指導頂いた大河

内先生のみまもる中、如法に修行した。又、堂内のかざりつけ、角塔姿の建て方などご

教示いただいた。

。会員消息としては泉竜寺資徳武真雄君新

会員として参加、仏導寺資伊藤俊一君休会中なるも、増上寺加行道場成満。



昭和五十四年度  
「事業及び  
執行部動向」

4/14	花祭り及び、臨時理事会	光明寺
4/22	臨時理事会	光明寺
5/12	第一回理事会	均昌閣
5/26	新旧役員会	山梨善光寺
6/9・10	関ブロ研修会	光明寺
6/30	第二回理事会	光明寺
7/5	開山忌前日清掃	光明寺
7/6	開山忌参加	光明寺
7/7	前柴田会長を囲んで	均昌閣
7/28・31	夏期僧堂手伝い	光明寺
8/25・26	全浄青第九回大会参加	知恩院
9/1	第三回理事会	宗仲寺
9/29	第四回家族親睦会	座間キャンプ
10/6	第四回理事会	光明寺
10/11	本山清掃	光明寺
10/14	お十夜念仏行進	光明寺
11/3	音楽法要学	赤坂見つけ
11/7・8	一泊理事会	熱海山本
12/8	第六回理事会	光明寺
55・1/20	或人式	光明寺
1/26	第七回理事会	光明寺
2/23	第八回理事会	光明寺
3/11	音楽法要第一回練習	大運寺
4/2	音楽法要第二回練習	大運寺
4/5	総会	光明寺

報告  
伝宗伝戒成満者

- 鎌倉 西徳寺 玉木井生
  - 港南 大誓寺 塩沢智彦
  - 中 西光寺 一真光
  - 港南 清源院 永原道雄
  - 高座 本真寺 大角真好尼
  - 中 大念寺 梶貴公夫
  - 高座 仏導寺 伊藤俊一
  - 鎌倉 宗円寺 角岡和教
  - 港南 浄念寺 大川英喜
  - 高座 浄林寺 久富一弘
  - 中 大福寺 石川昌宏
  - 港南 無量寺 笠松豊彰
  - 港南 護念寺 苅部恭明
- (順不同) 増上寺道場

以上十三名の会員が満行されました。心よりお慶び申し上げます。その気持ちを御理解いたしたき光明寺台下も心よく筆をおとり下さり会から一人一人へ色紙をお渡しすることができました。今後の活躍をお祈り致します。

後記

。善導大師千三百年遠忌の年、青年会の自行として力を結集したいと思えます。会員諸師のご協力をお願い致します。発行を準備が遅れたため、内容を割愛させていたたきました。次号には内容豊かなものにならしたいと思います。

編集子